



麻しん（はしか）が国内・国外で増加しています

米国・英国をはじめ世界各地で麻しんの流行が拡大しており、日本でも感染報告が急増しています。熊本市では現在のところ報告はありませんが、九州各県で発生しており、注意が必要です。

◆**感染経路**◆ 空気感染、飛沫感染、接触感染で、ヒトからヒトへ感染が伝播し、その感染力は非常に強いと言われています。免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

◆**主な症状**◆ 感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水、目の充血といった風邪のような症状が現れます。2~3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発しんが出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人程度の割合で脳炎が発症します。死亡する割合も、先進国であっても1,000人に1人と言われています。

◆**予防について**◆ 麻しんは感染力が強く、空気感染もするので、手洗い、マスクのみで予防はできません。麻しん含有ワクチンが最も有効な予防法といえます。

●麻しんにかかったかも?と思うときは・・・●

発熱や全身の発しん、咳、鼻水、目の充血などの麻しんのような症状がある場合は、麻しんの疑いがあること（麻しん患者との接触の有無や、麻しんの流行がみられる地域にいたことなど）をかかりつけ医または医療機関に電話等で伝え、受診の可否や注意点を確認してから、その指示に従ってください。

医療機関へ移動される際は、周囲の方への感染を防ぐためにもマスクを着用し、公共交通機関の利用を可能な限り避けてください。



厚生労働省HP
「麻しん」



定点種別	疾患名	状況	12週(3/16~3/22)		13週(3/23~3/29)	
			報告数	定点当り	報告数	定点当り
急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	-	187	7.79	115	4.79
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	/	12	0.50	18	0.75
	急性呼吸器感染症(ARI)	/	1226	51.08	1235	51.46
小児科	RSウイルス感染症	/	7	0.47	5	0.33
	咽頭結膜熱(プール熱)	-	6	0.40	9	0.60
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	108	7.20	69	4.60
	感染性胃腸炎	-	62	4.13	85	5.67
	水痘(みずぼうそう)	-	4	0.27	4	0.27
	手足口病	-	5	0.33	2	0.13
	伝染性紅斑(りんご病)	-	3	0.20	2	0.13
	突発性発しん	/	5	0.33	6	0.40
	ヘルパンギーナ	-	0	0.00	0	0.00
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	-	0	0.00	1	0.07
眼科	急性出血性結膜炎	-	0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)	-	0	0.00	6	1.20
基幹	細菌性髄膜炎	/	0	0.00	0	0.00
	無菌性髄膜炎	/	0	0.00	1	0.20
	マイコプラズマ肺炎	/	1	0.20	4	0.80
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	/	0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	/	2	0.40	1	0.20

※「状況」欄は、疾患ごとの警報・注意報レベルを表示しています。表中の斜線は、基準値が定められていないことを示します。
○:警報レベル △:注意報レベル -:警報・注意報レベルなし